



いつまでもお元気で

小泉系なよさんに松竹梅敬老祝金



3月15日に満100歳の誕生日を迎えた、小泉系なよさん(小原)宅を川井市長が訪ね、松竹梅敬老祝金100万円を贈り、長寿を祝福しました。系なよさんは、明治37年に小原の新町で誕生され、現在は4男の國江さん夫婦と3人暮らし。家族団らん楽しくお話をして過ごされています。昔も今もじっとしているのが苦手で、家の周りの草取りもされている系なよさん。国会中継がお気に入り、同姓の小泉首相のやりとりを楽しんで鑑賞しているとのこと。

NHKでれまさむね白石市キャラバン



熱気に包まれた特設スタジオ



市民オペラ関係者の皆さん

白石の魅力余すところなく紹介

2月16日から20日までの5日間、NHK仙台放送局の人気番組「てれまさむねTODAY」が、ホワイトキューブ内に設けられた特設スタジオから生放送を実施しました。

番組には、大勢の市民の皆さんが出演し、白石の歴史や文化、自然に産業と、白石の魅力が余すところなく紹介されました。観覧に訪れた大勢の市民たちも、生放送の緊張感を肌で体験しました。特設スタジオでは、白石の話題が流れるたびに歓声が上がリ、熱気に包まれていました。



大鷹沢小学校の6年生も「団七踊り」で生出演

地域のつながりを再確認

越河小の6年生が保育園に贈り物

3月9日、越河小学校の6年生13人が越河保育園に出向き、絵本18冊を保育園に贈り、園児たちに絵本の読み聞かせをしてあげました。

この絵本は、「地域に学び、地域を愛する」という目標のもと、児童たちが地域の皆さんと一緒にお米を作り、パザーで売るなどして得た資金の一部で購入したものです。

越河の子どもたちは、「下級生の面倒見がとてもよい」とのこと。児童たちは、ゆっくりと、ていねいに絵本を読んであげていました。



6年間の思い出を太鼓に込めて

深谷小で笠松太鼓引き継ぎ式

2月20日、学校・地域を挙げて「笠松太鼓」の演奏に取り組んでいる深谷小学校で、6年生から下級生へ、太鼓の引き継ぎ式が行われました。



引き継ぎ式では、まず6年生が、下級生を前に6年間の学校生活の思い出を込めて、力強い太鼓演奏を披露。

続いて下級生全員が、教えてくれた先輩たちへの感謝と、太鼓を引き継ぐ決意を込めて、元気に太鼓をたたきました。6年生たちは、「たたき方もうまくなり、かけ声も素晴らしかった。来年も頑張ってください」と後輩たちを激励していました。

不忘のきれいな水で育てました

不忘分校で飼育したサケを放流



福岡小不忘分校では、「不忘の水でサケを育てよう」と、白石川漁協の皆さんなどの協力で、3年前からサケの飼育に取り組んでいます。

3月15日、児童たちは、昨年12月から飼育を始め、卵から体長5センチにまで成長させたサケの稚魚約3,000匹を、白石川下流の大河原町に出向いて放流しました。

1日6・7回ものエサやりや、フン掃除など、一生懸命に飼育に取り組んだ児童たち。「4年後元気で帰って来いよ」などと、サケとの別れを惜しみながら放流していました。

人形に無病息災の願いを込めて

角田養護学校白石校生が流しびな

3月3日のひなまつりの日、白石第二小学校内の角田養護学校白石校の児童9名が、武家屋敷わきの沢端川で、ひな人形を川に流して無病息災を祈る、「流しびな」の行事を行いました。

ひな人形は白石和紙で作られ、人形を乗せる「棧俵(さんだわら)」は、佐藤一二さん(齋川)の指導で児童たちが稲わらを編んで仕上げました。



もちろん、くい呑みといえども、均察などは手の届くはずもない。昨年の暮れ、一通の封書が舞い込んだ。「ご依頼のありました做均察のくい呑み、見つかりました。輪花盆である徳利には似合うと思います。これがちと高い。でも、お立ち会い。こつこつ時に値切っ

市制施行五十周年記念事業の一つである、NHKのど自慢が八月十五日に内定したとの朗報が入った。もちろん正式決定は四月である。まず、のど自慢だから、自慢話を一つ。私が秘蔵している徳利がある。鼎変によって炎のような赤と、青色が出ていたため、特に「火焰紅釉徳利」という。形といい、色合いといい、最も気に入っている一品である。



川井市長のせせらぎトーク

「のど自慢」

いろいろな銘酒をそろえている。インターホテル地下の『梅林』は、十年貯蔵の菊姫大吟醸。都市セ

私の独断と偏見で言わせてもらえば、日本酒の王者は、十年貯蔵の菊姫大吟醸。都市セ

フロアマネージャーの渡辺さんは、「当店は各地の銘酒がそろっています。例えば、青森の田酒の最高級品で、善知鳥があります。これは、青森県内でも手に入ることができない酒で、現に、先日青森市の佐々木市長がおいでになって、ぜひとも本譲って欲しいと懇願されました。宮内庁に持っていくという話なので、割愛してあげました」と自慢げに言う。

八月十五日という絶好の開催日が決まったのだから、後は内容である。NHKもいい材料がそろわなければ、選びようがないだろう。のど自慢の出場権を得るのは、歌が上手なだけではない。地方色、仕事、人のユニークさやユーモアが取り上げられているのは、見ていてよく分かる。応募される市民の皆さんも、いろいろ白石らしさを出すような工夫を凝らして、盆の十五日の、のど自慢という名品に、第一級のうま酒を注いでいただきたいものである。